

## 論文審査の要旨

報告番号	甲・㊦ 第 2964 号	氏名	堀内 一哉
論文審査担当者	主査 相良 博典 副査 内田 直樹 副査 泉崎 雅彦		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>&lt;目的&gt;</p> <p>吸入ステロイド (ICS) /長時間作用型 <math>\beta_2</math> 刺激薬 (LABA) 配合剤を使用して症状が安定した喘息患者のステップダウンに関し安全な方法について検討を行った。</p> <p>&lt;方法&gt;</p> <p>ガイドラインに沿ってコントロール良好と判断した喘息対象とし、ICS を減量する群 (SFC 群) と、LABA を中止する群 (FP 群) とに割り付けた。呼気中一酸化窒素 (FeNO)、呼吸機能検査、喘息コントロールテスト (ACT) の計測し、変更後 2 ヶ月毎に各観察時点での SFC 群と FP 群の群間比較を行った。また経過中に症状の悪化した患者は、ドロップアウトとし治療継続可能期間についても群間比較を行った。</p> <p>&lt;結果&gt;</p> <p>治療変更後 1 年間ではドロップアウトに関しては両群で有意差は無かった。ACT 及び FeNO は 12 カ月の全観察期間において有意差は認めなかった。%FEV<sub>1</sub> は FP 群で LABA 中止直後 2 ヶ月目から 12 ヶ月までの全経過で有意に低下していた。%FEF<sub>50</sub> は、FP 群で変更後 8 ヶ月目以降から SFC 群と比較し有意に低下した。%FEF<sub>25</sub> では 12 ヶ月目に FP 群で有意に低下を認めた。</p> <p>&lt;考察&gt;</p> <p>LABA を継続使用することでリモデリングの進行を抑え、末梢気流制限の経時的な悪化を予防できる可能性が示唆された。</p> <p>上記の点で本論文が新しい知見を得ており、学術上価値のあるものと考えられる。</p> <p>論文題名 : Step-down therapy in well-controlled asthmatic patients using salmeterol xinafoate/fluticasone propionate combination therapy          (サルメテロールフルチカゾン配合薬使用にて症状が安定している喘息患者に対するステップダウン療法について)</p> <p>掲載雑誌名 : Journal of Asthma and Allergy VOL.9 PP.65-70, 2016</p>			

(主査が記載、500 字以内)